

Lend a Hand
手を貸そう国際ロータリー第2750地区多摩東グループ
東京多摩グリーンロータリー・クラブ

Weekly Report



クラブ会長テーマ 手を貸そう! そして強く握ろう!

2004-5-26 第653回例会 NO. 14-42 2004-6-2 発行

◎司会 SAA委員会 杉野志保子

◎点鐘 会長 大松 誠二

◎ロータリーソング「四つのテスト」
ソングリーダー 吉沢 洋景◎お客様紹介 会長 大松 誠二
・東京東村山RC 野村 高章 様
・米山奨学生 金 今 善 様

◎会務報告 会長 大松 誠二

・5月23日、大阪ドームで世界百数十カ国から47,000名のロータリアンが一同に会し国際大会が開かれ、当クラブからも会員、夫人を含め20名が参加してきました。盛大かつ素晴らしい大会でした。

・先週定例理事会を行いました。
今年度の活動報告書を各委員長さんからいただき、審議、了承しました。

今年度の仮決算ができましたので、これについて協議し承認しました。収入・支出とも順調に推移しています。

6月23日の最終例会についてプログラムと予算について協議しました。予算については会費を無料としました。奥様もご招待しますので、後程ご案内します。多くの方の出席をお待ちしています。

・小坂会員が入院されたので、会長、幹事と菊池次年度会長とで、お見舞いに行ってきました。元気そうで安心しました。皆さんによろしくとの事です。1~2週間で退院されます。

◎幹事報告 幹事 藤本 吉文

・メールボックスに6月の例会予定表と最終例会のご案内を配布してあります。

6月2日は東京都南多摩保健所長の卓話です。

6月9日はクラブフォーラムですが、当日、高木ガバナー補佐と栗山グループ幹事が一年間のお礼に、ということで当クラブにお見えになる予定です。

・6月14日はプロアマチャリティゴルフです。参加者の方、よろしく願いいたします。

・6月16日、例会は休みです。これは6月20日の東京多摩RCの35周年記念事業に振替となるためです。お間違えのないようお願いいたします。

・6月23日は最終例会です。出欠は来週の例会の時に回覧させていただきます。

◎次年度会務報告 次年度会長 菊池 敏

・本日例会後、臨時の被選理事会を行いますので、次年度役員理事の方はお集まりください。

【委員会報告】

◎出席報告 出席委員長 平野 行廣

・会員総数 42名
・出席義務者数 41名(出席免除者1名)
・出席者数 30名
・欠席者数 11名(事前MU3名)
・出席率 80.49%

・欠席者：阿部 華歌、藤原 正範、萩生田政由、小泉 博、小坂 一郎、正房 正孝、小田 泰機、澄川 昇、高野 範城、由井 眞司、内田 杏

・補填MU：澄川 昇 5/23 国際大会
萩生田政由 5/23 国際大会
内田 杏 5/23 国際大会

5/12 最終訂正出席率 80.49%

東京多摩グリーンロータリー・クラブ事務局

東京都多摩市落合1-43 京王プラザホテル多摩561号
TEL 042(372)6463 FAX 042(372)6491
E-mail tamagrc@cello.ocn.ne.jp

【例会場】京王プラザホテル多摩・たまつばき4階

【例会日】●毎週水曜日12:30 ●月の最終例会18:30

【会長】大松誠二 【幹事】藤本吉文

【クラブ会報委員長】赤尾恭雄 【副委員長】正房正孝

【委員】遠藤二郎・平野行廣・佐伯和廣・澄川昇・高木淳光・由井眞司・小田泰機

◎ニコニコBOX 親睦活動委員会 加藤喜三郎

- 大松 誠二 世界大会参加、お疲れさま。クラブもあと1ヶ月です。ご協力お願いします。
- 藤本 吉文 大阪大会に参加されました皆様、ご苦労様でした。又、大変お世話になりました。
- 伊藤 英也 娘が結婚しましたので、小林総支配人お世話になりました。
- 田中 タツ 大阪国際大会で伊藤さん、そして皆様に色々お世話になりました。ありがとう。
- 赤尾 恭雄 国際大会ツアー、皆様、ご苦労様でした。
- 菊池 敏 世界大会ご苦労様でした。楽しかったですネ。
- 北村 幸彦 久しぶりの夜間例会の出席、楽しませていただきます。
- 小林 和夫/海野 榮一 連名デス
例によって、臨時収入が入りましたので・・・
- 伊澤ケイ子 国際大会お世話になりました。神戸、京都楽しい旅でした。伊藤さん、菊池さん、桧垣さん、田島さん、ありがとうございます。
- 杉田 誠 埒のあかなかった拉致に一筋の光が差ししましたね。
- 小林 正 伊藤様！ お嬢様のご結婚おめでとうございます。
- 津守 弘範 前回、休みまして・・・

本日の合計¥29,000 (累計¥863,061)

◎国際奉仕委員会

委員長 吉沢 洋景

世界大会については会長からのお話のとおりです。総勢20名で参加し、椎原さんの所属する、岡山西南RCの方々と親睦を深めてまいりました。御協力ありがとうございました。

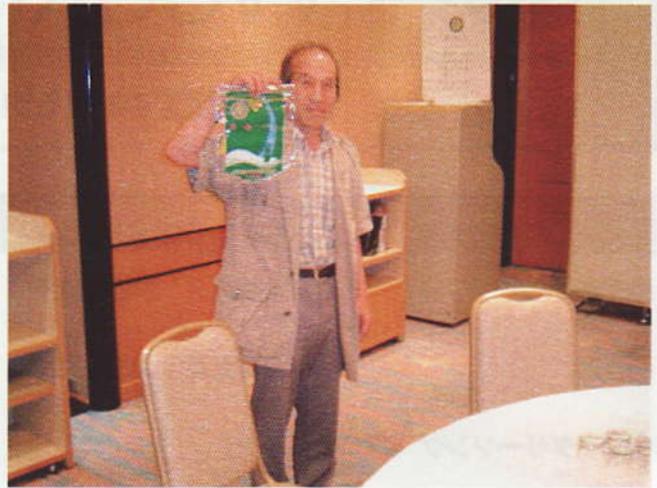


←国際大会の記念切手(¥80)が売り出されています。

◎バナーの交換報告

宮本 誠

- ・ 岡山の総社RCとバナー交換をしましたのでご報告します。



◎5月誕生祝

親睦活動委員長 伊澤ケイ子

おめでとうございます！

小林 和夫、高野 範城、津守 弘範、阿部 華歌、萩生田政由 以上各会員



◎点鐘

会長 大松 誠二

(例会担当：高木 淳光)

ポール・ハリスを我々の心に！ Part 50

ある冬のことでした。シカゴ郊外に散歩に出掛け、ロングウッド通りを歩いていた。この道は「尾根」と呼ばれている丘を巡っていましたが、「尾根」が南西の方向に数マイルにわたって延びていたので、大部分が平坦なシカゴでは大変珍しい場所だった。通りの西側に面した家々は通りに平行して建てられていた。

その日は丁度、丘が雪に覆われていたので、沢山の子ども達が他人の土地などお構いなしに滑り回っていた。地主達も、自分の家の横にある芝生の斜面を子ども達が自由に滑り回っても文句を言う人はいなかった。

こんな光景は、懐かしいニューイングランド時代の生活にそっくりだとポールは思い、家を持つならこのロングウッド通りの丘に限ると思った。ところが、意外にも早く、その時がやってきた。シカゴ・プレアリークラブのハイキングで田舎へ出掛け、そこで可愛らしいスコットランド娘に出会った。ポールの上着の綻びを見つけたその娘は、彼に「縫ってあげましょう」と言ってその綻びを縫い上げた。この出来事が彼女の苦勞の始まりだった

が、ポールはその後間もなく、彼女ジーン・トムソンにプロポーズした。

1910年、スコットランド娘ジーン・トムソンと結婚し、2年後にはこの丘の上に家を建てた。



ジーンが少女時代を過ごしたエジンバラの通りの名に因んで、家の雅号を「カムリー・バンク」と命名した。その後30数年間、雪が降ると、どこの子供にも自由に芝生の雪の上を解放し滑って貰った。

ポール夫妻は、「カムリー・バンク」を大いに活用し、世界中から訪れたロータリアンを招待したり、時には、8ヶ国のお客でホームパーティを開いたこともあった。来訪者を記念して“友情の庭”に植樹したが、既に多くのロータリアンの友人達が天国に召され、記念樹だけが友好の印として残された。

ポール夫妻は子供に恵まれなかつたので、彼等はロータリアンを養子として愛情を注いだ。国際ロータリー理事会より外国のロータリー・クラブ訪問の要請があれば原則

として受諾し、ポールはジーン夫人を伴って友好親善の旅を重ね、“友情の樹”を植え続けた。

因みに、ポールが“友情の樹”を植えたアジアの都市は東京と上海（1935年）である。

（コーナー担当：赤尾 恭雄）

『ロータリー知識』 入門編 「ロータリーは何をしてくれたか」

ポール・ハリスの自伝「MY ROAD TO ROTARY」という本の序文に「ロータリーとは何だ？この問いには何千という答えが何千という人によって用意された。しかしこれを答えるのは依然として難しい。けれども、ロータリーが我々に何をしてくれたか、ということ考えるとこれは割合に簡単だ」と。さらに、ある人の言葉を引用し「もしロータリーのお陰で私たちが、人生とか人間に対して温かい見方をすることが出来るようになったなら、つまり人生とか人間に対して暗い意地悪いイメージを抱かず、温かいイメージを持つことができるようになったなら、そしてもしもロータリーが私たちすべてに対して広い心を持ち、他人の長所を認めてやるような心を与えてくれたならばまた、もしもロータリーのお陰で人生の喜びを美しさを自分でも取り入れ、他人にも施すというタイプの人たちと快いおつき合いができるようになったとしたなら、これで我々がロータリーに期待していることの全てをロータリーは我々に与えてくれたことになる」とこう書いているのです。

R.C.は修道院ではありません。毎年私たちが会費として出しているお金の中で、本当に社会奉仕に支出されている額はさほど多くないのです。大半のお金はクラブの維持、親睦等のために使われます。それでいて奉仕だ奉仕だと声高に叫べば、世間から誤解を受けるのも不思議ではありません。ロータリアンは普通の「善意」を共通項として集っている人々なので、決して特別の人間ではないのです。

善意というものも余り大げさに考えない方がよろしい。私どもは大自然から太陽の光の矢を受けているように、様々な恩恵を四方八方から受けています。我々もまた、好意や愛情の矢を世間や自然に向けて射ております。世間や自然の一部として生きているということはそういうことです。

森三郎「私のロータリー」(1991)から。
第2570地区(PDG) (寄居R.C.)

（コーナー担当：遠藤 二郎）

★「ロータリーの友」拾い読みコーナー☆
 《今回は7月号に掲載が予定されている赤尾会員の投稿を事前にご紹介します。》

“ロータリー歴54年の重み”

東京多摩グリーンRC 赤尾 恭雄

PETSの開催された葉山の国際生産性センターから帰宅した私は、机に置かれた一枚の葉書を手にした。差出人の氏名には覚えがなく、裏を返して見た。そこには、「ロータリーの友3月号を拝見、全く同感で久しぶりに感激しました。」との書き出しでロータリーの変貌への思いが走り書きされていた。私が投稿した拙文「2004年規定審議会に期待できるか。」に関心を寄せていただいたものとわかり痛く感動を覚えた。

葉書の主は、和歌山ロータリー・クラブ（1937年創立、1950年再承認）のチャーター・メンバー竹中泰三様でロータリー歴は半世紀を超える54年、87才の大先輩で不治の「網膜色素変性症」を患っておられると知って殊更に恐縮の念を禁じ得なかった。

更に、引き続き二度に亘ってご丁寧なお手紙を頂戴し、そこにはロータリーへの思いや奉仕の体験を綴った手記が同封されていた。1950年、弱冠32才で、再発した和歌山ロータリー・クラブに入会され、神戸ロータリー・クラブの故直木太郎氏や故小菅金三氏を始めとする多くの先輩からロータリーの精神的な原点について薫陶を受けたこと、そしてそれを思うたびに今日のロータリーの変貌振りが嘆かれると記されていた。一方、ロータリーを通じて国の内外に多くの知己を得たことへの感謝の気持ちを抱かれ、貴重な奉仕活動の一端についても語られていた。

特に、世界のロータリー誌にも報じられたという和歌山女子刑務所の携帯乳児に対する奉仕活動や仮出所した殺人犯の女囚を個人的にお手伝いとして雇い入れた話は感動を超えてロータリアンの情熱を感じた。

また、竹中様は先代から継承された育英事業「竹中養源会」の理事長として800人を超える学生たちの支援をして来られたとのことだが、これも豊かなロータリー歴とともにロータリアンの鑑ではないだろうか。

「ロータリーの友」が縁で結ばれた大先輩との接点を、自らを育むロータリーの絆として何時までも大切に育てたいと思う。そして、ロータリー歴54年の重みに多くを学びたい。

(コーナー担当：高木 淳光、正房 正孝)

【季節の花】

・セッコク (ラン科)

5月の下旬～6月上旬 高尾山の琵琶滝コースを歩くと杉に水分、養分をおねだりして綺麗に花を咲かせるセッコクが見られます。



・シロヤシオ (ツツジ科)

別名五葉ツツジとって、愛子様のお印となっています。5月の下旬、山の稜線に綺麗な花を咲かせ、5枚の葉っぱは秋には真っ赤に紅葉します。



丹沢山のシロヤシオと富士山

